



Title	財団法人 大阪防疫協会の思い出
Author(s)	石橋, 卯吉
Citation	makoto. 1977, 20, p. 13a-13a
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86169">https://doi.org/10.18910/86169</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 財団法人 大阪防疫協会の思い出

財団法人 日本公衆衛生協会

会長 石 橋 卯 吉

終戦の混乱が未だ納らない頃昭和二十六年一月私は大阪府の衛生部長を拝命した。当時は赤痢腸チフスが流行しており時折天然痘なども流行する時代であった。終戦直後は物資の不足の

時代で防疫にも人手はあっても消毒薬もワクチンも仲々入手がむづかしかった。府が直接購入する時もあつたが防疫には備蓄が必要であり有事の用意にワクチンを持っていないと安心して

いられなかった。その前私は厚生省の防疫課長をしていたことがあつたが何時も地方からワクチンを買受けるため厚生省の私の課に泊り込んでワクチンの出来てくるのを待っている人々が

数人いたものであつた。こんな時代に防疫協会は生れ育つた。府庁でも必要欠くべからずと思ひ、他の場所から地下室に場所を与えてやつて貰つた。

その後時代の変遷と共に色々適切な業務に努力して今日の大をなしたのであり、協会の歴代方々に深い敬意を捧げ、今後の発展を心から祈ります。